

指導計画・評価資料

6年

1. ものが燃えるしくみ

【単元の目標】 空気の変化に着目して、ものの燃え方を多面的に調べる活動を通して、燃焼のしくみについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。
--

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	ものが燃えるしくみ ものが燃えるためには、何が必要なのか、ものが燃えるしくみについて調べてみよう。	思①／ものが燃えるためには、何が必要なのかについて、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	ものの燃え方と空気の動き 缶の下の方にも穴を開けるとよく燃えるのは、空気とどんな関係があるのだろうか。 実験1 ものの燃え方と空気の動き	思①／ものの燃え方と空気の動きについて、問題を見いだし、予想や仮説をもとに解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）
		知②／線香やろうそくなどを目的に応じて用意し、安全に正しく使って、空気の動きを調べ、適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）
第2次	燃やすはたらきのある気体 窒素、酸素、二酸化炭素のうち、ものを燃やすはたらきがあるのは、どの気体だろうか。 実験2 気体による燃え方のちがい	思②／実験結果から、気体の種類によるものを燃やすはたらきの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）
第3次	ものが燃えるときの空気の変化 ものが燃えるとき、空気中の気体にはどんな変化があるのだろうか。 実験3 ものを燃やす前と後の空気のちがい	知②／気体検知管や石灰水などを安全に正しく使って、ものが燃える前と後の空気の変化を調べ、結果を適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析）
		知①／ろうそくや木などの植物体が燃えると、空気中の酸素が使われ二酸化炭素ができることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
		態①／ものが燃えるときの空気の変化に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（えんとつ効果でよく燃える、酸素を積んで飛ぶロケット）	態②／ものの燃焼のしくみについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

2. ヒトや動物の体

【単元の目標】 体のつくりと呼吸、消化、排出および循環のはたらきに着目して、生命を維持するはたらきを多面的に調べる活動を通して、ヒトや他の動物の体のつくりとはたらきについての理解をはかり、実験、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	ヒトや動物の体 生きていくために必要なものを、どのようにして体の中に取り入れているのだろうか。	思①／体に必要なものをどのように取り入れているのかについて、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	食べ物のゆくえ 食べ物は、口の中で、どのように変化するのだろうか。 実験1 だ液によるでんぷんの変化	思②／だ液によるでんぷんの変化について考察する中でより妥当な考えをつくり出し、表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
	食べ物は、体のどこを通して、どのように変化していくのだろうか。 資料調べ1 食べ物の通り道や変化	知②／口から取り入れられた食べ物は、消化管を通る間に消化・吸収され、吸収されなかったものは排出されることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
第2次	ヒトや動物と空気 空気を吸ったり、息を吐いたりするときに、何を取り入れ、何を出しているのだろうか。 実験2 吸う空気とはき出した息のちがい	知⑤／気体検知管や石灰水を正しく扱い、吸気と呼気の違いを調べているかを確認する。（行動観察）
		知①／ヒトや動物は、呼吸によって酸素を取り入れ、二酸化炭素などを出すことを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
		態①／呼吸のときの空気の変化に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
第3次	体をめぐる血液 活動 血液の流れを感じてみよう 血液は、体の中をどのように流れ、どんなはたらきをしているのだろうか。	思①／血液の循環を、消化・吸収や呼吸のはたらきと関係づけて追究し、予想や仮説を発想して、自分の考えを表現しているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
	血液の流れとはたらきを調べよう。 資料調べ2 血液の流れとはたらき	知⑤／資料などを目的に応じて選択し、血液の流れや腎臓のつくりとはたらきを調べ、結果を適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析）
		知③／血液は心臓のはたらきで体内を巡り、養分、酸素および二酸化炭素などを運んでいることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
第4次	生命を支えるしくみ 臓器どうしには、どんなつながりがあるのだろうか。 活動 血液の流れを通した臓器どうしのつながり	知④／体内には生命を維持するためのさまざまな臓器があることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（消化管の長さ、血管の長さ）	態②／ヒトや動物の体のつくりとはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

3. 植物のつくりとはたらき

【単元の目標】 植物の体のつくりと体内の水などのゆくえや葉で養分をつくるはたらき、植物と空気の関係に着目して、生命を維持するはたらきを多面的に調べる活動を通して、植物の体のつくりとはたらきについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
--	--	--

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	植物のつくりとはたらき 植物の体の中を，水はどのように運ばれているのだろうか。	思①／植物の体の中を，水がどのように運ばれているかについて，予想や仮説をもとに，解決の方法を発想し，表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	植物と水 根が取り入れた水は，どこを通って，植物の体に行き渡るのだろうか。 実験1 植物に取り入れられる水	知④／植物には，根から取り入れた水の通り道があることを調べ，結果を適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）
	葉まで運ばれた水は，その後，どうなるのだろうか。 実験2 植物の体にある水のゆくえ	思①／葉まで運ばれた水がその後どうなるかについて予想や仮説を発想し，表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知②／根や茎，葉には水の通り道があり，根から吸い上げられた水はおもに葉から蒸散により排出されることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
第2次	植物と空気 植物は，どんな気体のやり取りを行っているのだろうか。 実験3 植物での気体の出入り	知④／気体検知管などを正しく使って，植物と空気の間を調べているかを確認する。（行動観察） 態①／植物が行う気体のやり取りに進んでかわり，粘り強く，他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
第3次	植物と養分 植物の葉に日光が当たると，でんぷんができるのだろうか。 実験4 日光と葉のでんぷん	知④／日光と葉のでんぷんについて，実験の目的に応じて材料を用意し，正しく扱いながら調べているかを評価する。（行動観察） 思②／日光と葉のでんぷんについて，実験の結果から考察する中でより妥当な考えをつくりだし，表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知①／植物の葉に日光が当たると，でんぷんができることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう(7色のバラ)	態②／植物の体のつくりとはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

4. 生物どうしのつながり

【単元の目標】 生物と水，空気および食べ物とのかかわりに着目して，それらを多面的に調べる活動を通して，生物と持続可能な環境とのかかわりについて理解をはかり，観察，資料調べなどに関する技能を身につけるとともに，おもにより妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度，主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
---	--	--

※各観点の評価は，「4. 生物どうしのつながり」「10. 自然とともに生きる」を通して計画している。

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	生物どうしのつながり 生物が，食べ物や空気，水を通して，どのようにかわり合っているのか，調べてみよう。	思①／生物が，食べ物や空気，水を通して，どのようにかわり合っているのかについて，既習の内容や生活経験をもとに，根拠のある予想や仮説を発想し，表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	食べ物を通した生物のつながり わたしたちの食べ物のもとは，何だろうか。 資料調べ1 食べ物のもとをたどる	知②／ヒトは，植物や動物を食べ，動物の食べ物をたどっていくと植物に行きつくことを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト） 態①／食べ物を通した生物のつながりに進んでかわり，粘り強く，他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
	自然の池や川などでも，食物連鎖が見られるのだろうか。 観察1 池や川の水中の小さな生物	思①／自然の中の生物も，食物連鎖でつながっていることについて，予想や仮説を発想し，表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知④／顕微鏡を正しく使って，水中の小さな生物を観察し，結果を適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析） 知②／メダカなどの魚は，水中の小さな生物を食べ物にして生きていることを理解しているかを確認する。（記述分析・ペーパーテスト）
第2次	空気や水を通した生物のつながり 生物は，空気や水を通して，どのようにかわり合っているのだろうか。 活動 空気や水を通した生物のつながり	思②／動物と植物が空気を通してかわり合っていることについて，調べたことから考察する中でより妥当な考えをつくり出し，表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知①／生物は，空気や水を通してかわり合って生きていることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう(海につながる森)	態②／生物どうしのつながりについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

5. 水よう液の性質

【単元の目標】 水に溶けているものに着目して、それらによる水溶液の性質やはたらきの違いを多面的に調べる活動を通して、水溶液の性質やはたらきについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
---	--	--

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	水よう液の性質 水溶液には、それぞれどんな性質があるのだろうか。	思①／水溶液には、それぞれどんな性質があるかについて、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	いろいろな水よう液 5種類の水溶液は、どうすれば区別することができるのだろうか。 実験1 水よう液のちがい	思①／5種類の水溶液の区別のしかたについて予想や仮説をもち、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析） 知④／水溶液や器具を目的に応じて用意し、安全に正しく使って、いろいろな水溶液の違いを調べているかを評価する。（行動観察）
	どうすれば、炭酸水に二酸化炭素が溶けていることがわかるのだろうか。 実験2 炭酸水にとけているもの	知②／水溶液には、気体が溶けているものがあることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
	水よう液の仲間分け リトマス紙を使うと、水溶液をどのように仲間分けすることができるのだろうか。 実験3 水よう液の仲間分け	知④／リトマス紙などを正しく使って水溶液の性質を調べ、結果を適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析） 知①／水溶液は、酸性・中性・アルカリ性の3つの仲間に分けられることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
第3次	水よう液と金属 塩酸を含む水溶液は、なぜ金属製品には、使えないのだろうか。 実験4 金属にうすい塩酸を加えたときの変化	知④／水溶液や器具を安全に正しく使って、金属が変化するようすを調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）
	塩酸に溶けて見えなくなった金属は、どうなったのだろうか。 実験5 見えなくなった金属のゆくえ	思①／金属に薄い塩酸を加えたときのようなすから、金属に起こった変化について予想や仮説をもち、解決の方法を発想しているかを評価する。（発言・記述分析） 知④／見えなくなった金属がどうなったのかを調べ、結果を適切に記録しているかを確認する。（記録分析）
	塩酸に金属が溶けた液体から出てきた固体は、もとの金属と同じものなのだろうか。 実験6 出てきた固体の性質	思②／蒸発皿に残ったものの性質を調べた結果から考察する中でより妥当な考えをつくり出し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知③／水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
		態①／水溶液と金属に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう (性質が変化しにくい金属，土の酸性を弱める)	態②／水溶液の性質やはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

6. 月と太陽

【単元の目標】 月と太陽の位置に着目して、これらの位置関係を多面的に調べる活動を通して、月の形の見え方と月と太陽の位置関係についての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
---	--	--

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	月と太陽 月の形の見え方と太陽には、どんな関係があるのだろうか。	思①／月の形の見え方と太陽の光との関係について問題を見いだし、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	月の形の変化と太陽 日によって、月の形が変わって見えるのは、月と太陽の位置と関係があるのだろうか。 実験1 月の位置と月の形の変化	思①／月の形や月と太陽の位置関係について、問題を見いだし、予想や仮説をもとに解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知②／月の形の見え方を調べるモデルの意味を理解して、ボールなどを目的に応じて用意し、正しく扱いながら調べ、適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析） 思②／モデル実験や観察をもとに、月の形の見え方が変化する理由について、より妥当な考えをつくりだし、表現しているかを評価する。（発言・記述分析） 知①／月の形の見え方は、地球から見た太陽と月の位置関係によって変わることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト） 態①／月の形の見え方に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを確認する。（行動観察・発言・記述分析）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（月を照らす地球，月から火星へ）	態②／月の形の見え方の変化や月の表面のようすなどの学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

7. 大地のつくりと変化

【単元の目標】 土地やその中に含まれているものに着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、土地のつくりや変化についての理解をはかり、観察、実験、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
---	--	--

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	大地のつくりと変化 地面の下の大地のつくりや変化について、調べてみよう。	思①／地面の下の大地のつくりや変化について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	大地のつくり 地層は、どんなものからできているのだろうか。 観察1 地層のようす	思①／地層のようすや構成物について、予想や仮説をもとに解決の方法を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
		知④／地層のようすを調べる器具などを目的に応じて用意し、正しく扱いながら観察し、適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析）
		知①／地層の構成物と、地層に重なりや広がりがあることを理解しているかを確認する。（記述分析・ペーパーテスト）
		態①／大地のつくりに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
第2次	地層のでき方 水のはたらきによる地層は、どのようにして、できるのだろうか。 実験1 水のはたらきによる地層のでき方	思①／地層のでき方について問題を見だし、解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）
		知④／堆積のモデルを運搬・堆積の場としてとらえ、地層のでき方を調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）
		思②／地層が固まってできた岩石や化石を調べ、長い時間の経過と合わせて考察しているかを評価する。（発言・記述分析）
	火山灰には、どんな特徴があるのだろうか。 観察2 火山灰のつぶのようす	知④／双眼実体顕微鏡などの器具を正しく操作しながら、火山灰を観察し、その特徴を適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）
第3次	火山や地震と大地の変化 火山活動や地震によって、大地にどんな変化が起こるのだろうか。 資料調べ1 火山活動や地震による大地の変化	知④／資料などを目的に応じて選択し、火山活動や地震による大地の変化について、多面的に調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）
		知③／大地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
第4次	火山や地震とわたしたちの暮らし 火山活動や地震は、わたしたちの暮らしとどんな関係があるのだろうか。	思②／火山活動や地震に対する具体的な備えを知り、自然からの恩恵についても理解し、自然との向き合い方について、自分なりの考えをもっているかを確認する。（発言・記述分析）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（海の底でできたヒマラヤ山脈の地層）	態②／大地のつくりと変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

8. てこのはたらき

【単元の目標】 加える力の位置や大きさに着目して、これらの条件とてこのはたらきとの関係を多面的に調べる活動を通して、てこの規則性についての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。		
--	--	--

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	てこのはたらき パールのように小さな力でも楽に作業ができる道具は、どんなしくみになっているのだろうか。	思①／てこのはたらきについて、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	棒を使った「てこ」 てこをどのように使えば、重いものを小さな力で持ち上げることができるのだろうか。 実験1 てこの手ごたえ	思①／てこを使って重いものを小さな力で持ち上げる方法について、予想や仮説をもとに解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）
		知③／力点・作用点の位置を変え、てこを使うときの手ごたえを調べ、結果を適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析）
		思②／てこの手ごたえと支点・力点・作用点の位置関係について考察する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第2次	てこのうでをかたむけるはたらき 左右のうでで、おもりをつるす位置やおもりの重さを変えると、どんなときに水平につり合うのだろうか。 実験2 てこが水平につり合うとき	知③／実験用てこを使って、左右のおもりの重さや位置を変えながら、てこの規則性を計画的に調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）
		思②／実験結果をもとに、てこの規則性について、より妥当な考えをつくりだし、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）
		知①／てこがつり合うときの規則性や、支点から等距離でつり合うときはおもりの重さも等しいことを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
		態①／てこのうでを傾けるはたらきに進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
第3次	てこを利用した道具 てこを利用した道具は、どんなしくみになっているのだろうか。 実験3 てこを利用した道具のしくみ	知③／てこを利用した道具を目的に応じて用意し、安全に正しく使いながら、支点・力点・作用点について調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）
		知②／身の回りには、てこの規則性を利用した道具があることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
		思②／てこの規則性と道具のしくみやはたらきとの関係を多面的に調べ、考察し、自分の考えを表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（てこのしくみを利用した道具、身近な道具で救われた命）	態②／てこの規則性について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

9. 発電と電気の利用

【単元の目標】 電気の量やはたらきに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、発電や蓄電、電気の変換についての理解をはかり、実験、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	発電と電気の利用 電気をつくったり、蓄えたり、使ったりして、電気のはたらきを調べてみよう。	思①／発電と電気の利用について問題を見いだし、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	電気をつくる 手回し発電機は、乾電池と同じようなはたらきをするのだろうか。 実験1 手回し発電機での発電	思①／発電について問題を見いだし、乾電池と比較した予想や仮説をもとに解決の方法を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）
		知④／手回し発電機などを正しく扱いながら、発電のようすを調べ、適切に記録しているかを評価する。（行動観察・記録分析）
	光電池には、どんな特徴があるのだろうか。 実験2 光電池での発電	知④／光電池や鏡などを目的に応じて用意し、正しく扱いながら実験を行い、適切に記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）
第2次	電気の利用 発電した電気を、蓄えて使うことができるのだろうか。 実験3 コンデンサーにたくわえた電気の利用	知①／電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
		思②／実験結果をもとに、豆電球と発光ダイオードの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）
	身の回りでは、電気をどのように利用しているのだろうか。 資料調べ1 電気の利用のしかた	知②③／電気は、光、音、熱、運動などに変換でき、身の回りには、電気の性質やはたらきを利用した道具があることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
第3次	「プログラミング」を体験しよう 必要なときに明かりをつけるプログラムを考えてみよう。	思①／電気を無駄なく使うための工夫について問題を見いだし、予想した条件や動作の組み合わせをもとに、解決の方法を発想し、プログラミングしているかを確認する。（行動観察・記述分析）
		態①／プログラミングの活動に進んでかかわり、粘り強く、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）
まとめ～つなげよう	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう（清そう工場での発電、モーターで発電する乗り物）	態②／発電と電気の利用について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）

10. 自然とともに生きる

【単元の目標】 生物と水、空気および食べ物とのかかわりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、生物と持続可能な環境とのかかわりについて理解をはかり、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもにより妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。
--

※各観点の評価は、「4. 生物どうしのつながり」「10. 自然とともに生きる」を通して計画している。

次	指導計画	評価規準（B基準）と評価手法
単元導入	自然とともに生きる 「自然とともに生きる」とはどのようなことなのか、考えてみよう。	思①／身の回りの環境について問題を見いだし、表現しているかを確認する。（発言・記述分析）
第1次	わたしたちの生活と環境 わたしたちの生活は、環境とどのようにかかわり合っているのだろうか。	知③／ヒトは、環境とかかわり、工夫して生活していることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）
第2次	環境へのえいきょう わたしたちのくらしは、環境に、どのような影響を与えたり、与えられたりしているのだろうか。 資料調べ1 わたしたちの生活と環境の変化	知④／資料などを目的に応じて選択し、ヒトの活動と環境が互いに与えている影響について調べているかを確認する。（行動観察・記録分析）
第3次	自然とともに生きるために わたしたちは、どうすれば、環境を守りながら、よりよい生活を続けていくことができるのだろうか。	思②／身近な環境とのかかわりや与えている影響などの調べたことをもとに、より妥当な考えをつくりだし、自分たちの生活を見直そうとしているかを評価する。（行動観察・発言・記述分析）